

- 一、減俸減給絶對反對
 - 一、賞與減額絶對反對
 - 一、昇給停止絶對反對
 - 一、共済組合政府給與金減額絶對反對
- 右決議す

昭和六年五月廿五日

全官業労働組合協議會

關係三省協同

減俸反對選信従業員大會決議に基いて各省減俸反對協議會の結成促進を期する一方、廿五日午前十一時、本部に集合した五十二名の各職場代表は赤松會長を先頭に徒歩で先づ麴町永田町首相官邸に押しかけた。門前を固めてゐた約卅名の警官が入門をさへぎらうとしたが「正式の職場代表だぐすく云ふな」と許り全部官邸應接室に於て、首相不在の爲め川崎書記官長と會見決議を突きつけ減俸案撤回を要求して直に大藏省に向ひ、川田次官と面接して、同様減俸減給反對決議を手交し、我等の代表は選信大臣に會見すべく選信省に至り大臣室に於て、小泉大臣、今井田次官、平川參與官、猪熊大臣官房保健課長と會見し、赤松會長より決議を手交し、全選信従事員の意志を代表して減俸案の撤回を要求し、諸給與の減額、人員整理等に飽迄反對するも

のである事を述べ、當局の猛省を要して代表は本部に引上げた。

支部長會議を召集して減俸強行後の國庫方針を指示

減俸反對の火の手は鐵道、商工、陸軍、海軍、司法等各省の全従業員に及び、高等官運送も食堂會議屋上大會等に依り、反對氣勢を擧げ、直接生活問題に影響する減俸が如何に人心を動搖せしむるかを如實に示した、鐵道の現業委員會選信部内の従業員會の如き御用團體すらも、大業の切實な減俸反對の要求に引摺られ、ジャーナリズムに煽動され、御祭騒ぎではあつたが、御義理にも反對運動を起すに至つた、然し乍ら何等統制力を持たない、彼等の運動は政府の減俸強行の前に朝霧の如く消え去つた。我々にはこれら官吏の衰れな敗北は直に雇傭人に對する警告となつて來るは必然であり、昨日迄減俸反對を叫んで自づから明日からは我等の面前に支配階級の手先となつて、ひかひか、待選低下並に労働強化絶對反對の決議をなし左記各項目の反對運動を指令した。

- 一、昇給停止引延絶對反對
- 一、勤勉手当減額絶對反對
- 一、年末手当減額絶對反對

- 一、缺員不補充絶對反對
- 一、臨時者の即時拜命
- 一、人員整理絶對反對

職場決議を要局に要求

二十九日各職場に諸給與減額反對、勞務加重、人員整理反對を決議した、全選友の同志はそれぞれ代表を擧げ右決議を要求として當局に迫る事になつた、各職場の代表は當該局長に要求を提出すると同時に當日一時本部に集合し約五十名の代表は東京選信局に、波多野局長始め選信局幹部と會見現業局に於ける實狀を訴へ、それより直に本省に赴き、大臣不在の爲め、大臣官房猪熊保健課長と會見し別項支部長會議の決定各項に就き、要求したる處、小泉大臣の言葉であるとして大様左の如き回答を與へた。

「従業員の待遇問題に就ては、次官以下経験ある人々と研究したが餘り効果を擧げる事の出来なかつた事は遺憾とする、今後は努めて自分が其の例に當り、今回の減俸以外は

以上の如く減俸反對闘争を通じて、次に來る可き雇傭人の減員減給に對する反對闘争として相當の効績を擧げたが、一面本減俸問題が官吏階級殊に判任官級に與へた影響は大なるものであると思ふ、彼等は今回の問題によつて、自らの勤勞階級的立場について十分自覺する所があつたと思ふ。しかして労働階級が生活權のために行ひつゝある労働組合運動に對しても、新なる考察に迫られたこと、考へる。労働問題と頭から危険視し、労働組合を頭から壓迫して來た監督者諸君にとつて、減俸問題は實に偉大なる啓蒙的效果を發揮したといはねばならぬ。